授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2370 号

Analysis of Pseudoaneurysms in Solid Organs after Blunt Abdominal Injury in Pediatric age group Treated at an Emergency Center

(小児における鈍的腹部外傷後に生じた仮性動脈瘤の解析)

石原　唯史（いしはら　ただし）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、交通事故や転落にて生じる小児腹部実質臓器の鈍的外傷において、しばしば経験される仮性動脈瘤に対する治療方針について言及した学術論文である。実質臓器損傷で合併した仮性動脈瘤に対して、成人では経動脈的塞栓術（TAE）にて閉塞させることが一般的であるが、小児においては手技的な難しさや合併症を引き起こすリスク等から TAE の適応に関しては定まっていないのが現状であった。

著者らは、自施設の救命センターで入院加療を行った鈍的腹部外傷症例 17 例について、仮性動脈瘤をきたした 4 例ときたさなかった 13 例について、その臨床像と入院期間や復学までの時期を後方視的に検討した。その結果、仮性動脈瘤のある群とない群において、外傷学的重症度、集中治療室入院を要する期間、復学までの期間、更に接触スポーツへの復帰時期に有意差がないことを明らかにした。また仮性動脈瘤をきたした 4 例のいずれにおいても、TAE を施行せず保存的加療を優先した結果、第 14±8 病日までに自然消退を確認し、遅発性破裂などの合併症がなかったことを報告した。本結果は、腹部実質臓器鈍的損傷の小児例において、仮性動脈瘤をきたした症例でも、自然消退が期待でき、TAE に伴う脾機能低下などの合併症を回避できる可能性を示しただけでなく、TAE を回避した保存的加療を実施しても、特に入院期間や学校生活休学の延長をきたすことなく、安全に管理できることを明らかにした。本結果は、小児外傷例について、救急領域のみならず、集中治療、小児科、小児外科、放射線科領域においても重要な知見を含有していると考えられる。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。